

堺市の伝統産業の現状・課題と 活性化への提案

-刃物産業を”参入”と”教育”から考える -

2025.12.20

「副首都・大阪」大学連携プロジェクト リサーチ・プレゼンテーション事業
慶應義塾大学 経済学部 橋口勝利研究会6期

0. アジェンダ

- ▶ 01 導入（研究テーマ選定理由）
- ▶ 02 現状分析
- ▶ 03 提案
- ▶ 04 副首都構想への繋がり
- ▶ 05 卷末資料

**伝統産業を現代の都市構造に再構築し、
100年前の大坂の勢いを取り戻す**

● エグサマ

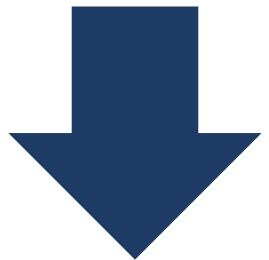
現代における『新・大阪』の創出

大阪市だけで完結せず、複数の都市が“役割分担”しながら
一体で機能する新たな副首都の形

本プレゼンではその第一段階として大阪府南部の中心である堺市に注目
伝統産業の活性化を軸とした『循環型都市構築』について
『SAKAI CRAFT DOJO構想』を提案

“大阪副首都構想とは”

→ 中央省庁の一部移転、首都圏とは異なる経済圏の創出



震災など非常時に国家機能を継続できる体制づくり
平時の日本の国力の向上
東京の地価・賃料高騰の緩和
等の効果を期待

●100年前の「大大阪」

1920-30年代の大坂は東京をも凌ぐ経済成長を見せ、活気に溢れていた

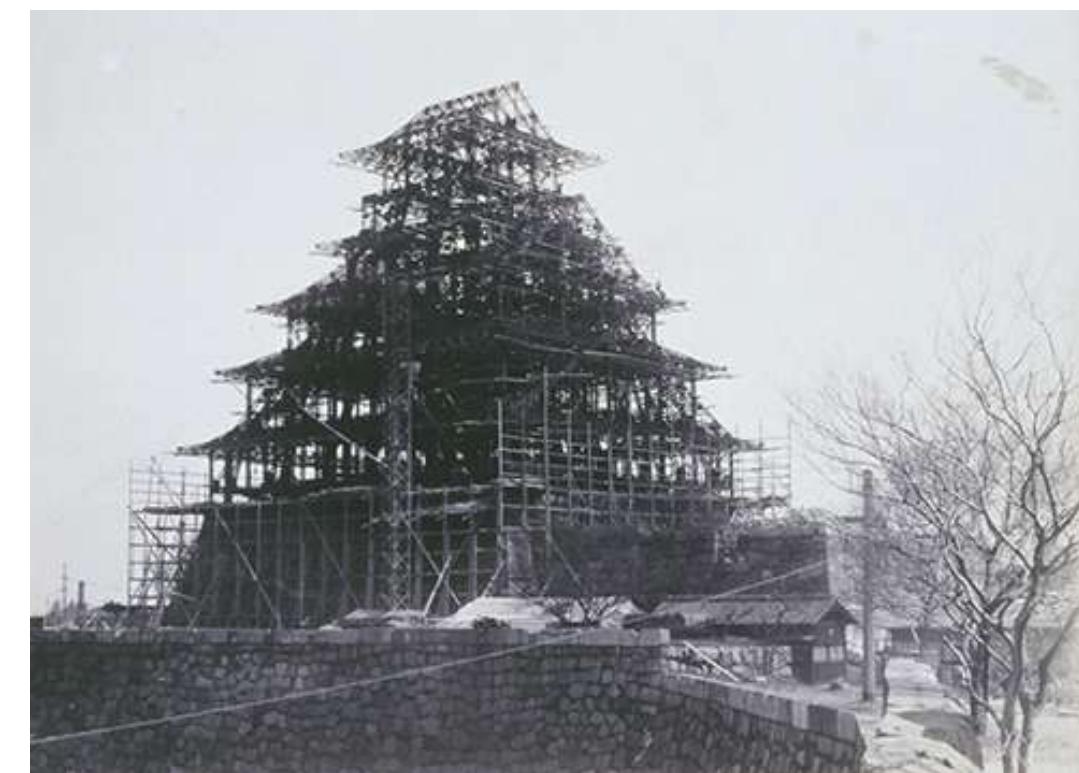
- ・人口：約325万人（1930年）
→ 東京を抜き、日本最大の都市
- ・工業出荷額 日本一
→ 日本最大の工業都市
- ・御堂筋線（1933年）開通
→ 東洋初の本格的地下鉄
- ・大阪城天守の再建（1931年）
港湾・金融・商業が一体化した
アジア有数の経済都市

御堂筋線開通



出典: ドゥイツ・キエルト「1930年代の大坂・御堂筋の地下鉄建設」
『オールド・フォト・ジャパン』2025年11月19日参照
(<https://www.oldphotojapan.com/photos/493/御堂筋の地下鉄建設>)

大阪城改築



出典：「大阪城天守閣 90年の歴史（基礎工事・鉄骨組み・足場撤去）」
『大阪城天守閣公式サイト』2025年12月18日参照
(<https://www.osakacastle.net/90/history/>)

●100年前の「大大阪」は、産業が連鎖する「起点」だった

企業家ミュージアムを見学

- ・堂島米市場を起点とした商人の町
- ・纖維産業の集積（大阪紡績・大日本紡績
- ・鐘淵紡績）
⇒東洋のマンチェスターと呼ばれる
- ・ものづくりが食品・電機・重工業への派生
(江崎グリコ／サントリー／松下／シャープなど)
- ・商社の発展（双日・伊藤忠）



出典：大阪公式観光情報 Osaka Info
<https://share.google/0vZ0mVvEqwGOB7zwT>



出典：経済産業省近畿経済産業局 大阪商工会議所 大阪企業家ミュージアム
<https://share.google/JebgLnKdsdsVD0ZzY>

大阪企業家ミュージアムを実際に訪問して、100年前の大大阪の実態を知ることができた。
⇒新・大大阪を実現するメリットを実感できた

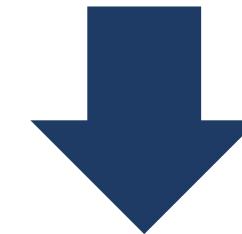


経済成長とは...

単に所得やGDPが増えることではなく、
「人や産業や価値が、長い時間軸で集まり続ける仕組みをつくること」

●経済成長とは

「商いのまちとして育んできた大阪のポテンシャルを生かし、
グローバルな経済都市をめざす。」



- ・ 目先の数字ではなく、
 - ・ 大阪らしい「商いの力」を生かしながら
 - ・ 長期的に価値が生まれ続ける状態を指している
- と解釈

●なぜ堺の伝統産業に着目したのか

“商い × ものづくり”を最も体現する
のが 堺の伝統産業

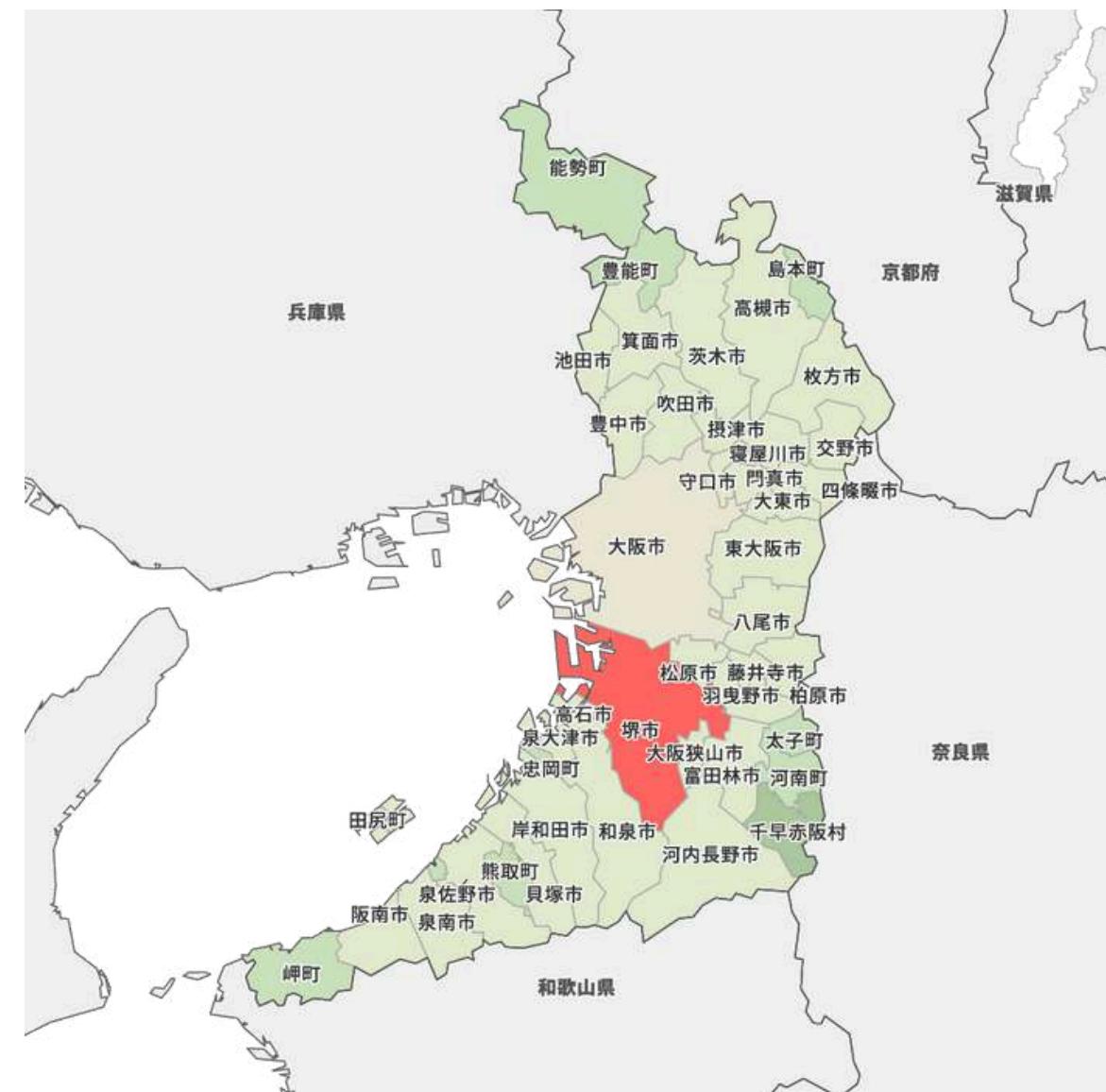
●解決したい課題

南北格差の解消

⇒オール大阪の実現

ものづくりの再生

⇒伝統産業の再構築

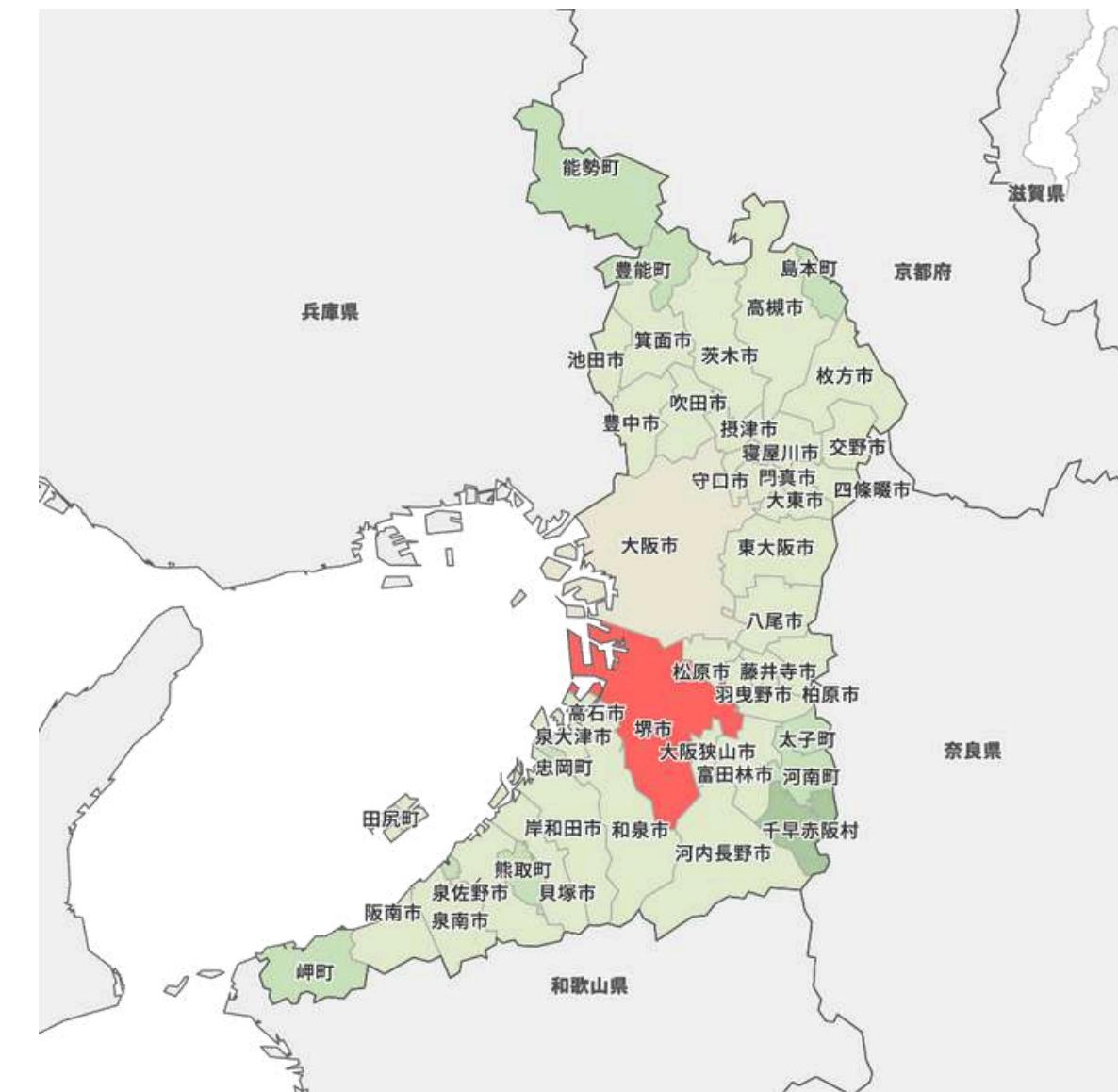


●なぜ堺の伝統産業に着目したのか

“商い × ものづくり”を最も体現する
のが 堺の伝統産業

- 歴史的に商人都市・自治都市として発展
- 刃物・線香など100年以上続く産業
- 海外需要急増という市場性
- 観光・教育との親和性が高い

→ 「商い × ものづくり × 都市」が
再び接続しうる条件を、今なお部分的に保持している



中世

都市と接続

堺は歴史的に見ても、「自治都市」「貿易都市」として栄え、ものづくりの中心地として発展。

工房が街に密集

工房 × 商人 × 堀港が一体

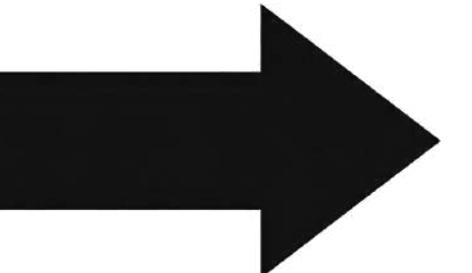
分業ネットワークが都市全体に広がる

住居と工房が隣接

人の流れ = 値値の流れ

都市が産業を支え、産業が
都市を形づくる循環

高度経済成長以来、
都市構造が変化



現代

都市接続が崩壊

騒音・振動規制 → **工房の中心地立地が困難**
都市計画法 → 新規工房の建設がほぼ不可能
住宅地化 → **小工房が排除され縮小**
分業ネットワークが分断

100年続いた産業が都市構造から
切り離され、循環エンジンが停止

堺の伝統産業の“断絶”を、
現代の都市構造にあった形で再接続し、

“新・大阪”

を実現します

現状分析

●堺市の伝統産業

堺打刃物



<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/sakai/keisho/dentosangyo/sakaiuchihamono.html>

堺線香



<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/sakai/keisho/dentosangyo/sakaiuchihamono.html>

浪華本染め(注染)



<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/sakai/keisho/dentosangyo/sakaiuchihamono.html>

◎光の部分

- 職人の高度な技術と独自性によるブランド力
→国内外からの人気がある
- 堺の都市構造にも影響を与え続けてきた歴史的蓄積
⇒「生産・流通・販売」を都市で完結させ繁栄してきた

●堺市の伝統産業

堺打刃物



堺線香



浪華本染め(注染)



◎影の部分

- 伝統産業の規模縮小
 - ⇒後継者不足や職人の高齢化が進み、廃業する工房も増加
- 都市・住民との繋がりが希薄化
 - ⇒工房数の減少、地域コミュニティとの関わりも薄れる

堺市の伝統工芸品の中でも刃物産業（堺打刃物）に着目

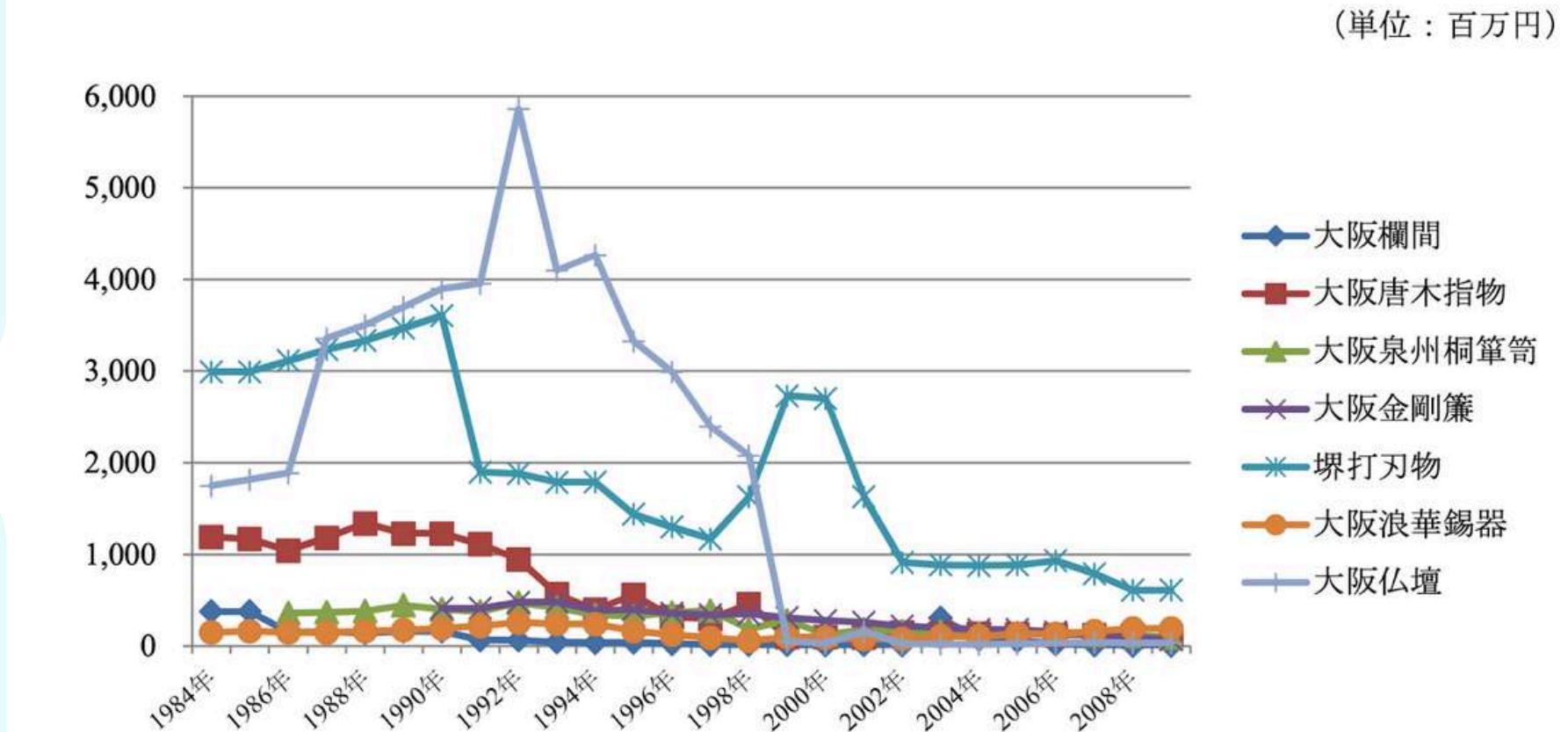
選定根拠

- ・大阪府内の伝統工芸品の中で最大の生産額を誇る
- ・技術継承の難しさ・後継者不足の深刻さといった伝統産業共通の課題を最も色濃く内包する

堺打刃物の特徴

- ・生産において4段階の分業制
『鍛冶→刃付け→柄製造→柄付け』
- ・各工程ごとにそれぞれ工房が異なる。

図1 品目別生産額の推移（国指定7品目）



出典：大阪の伝統的工芸品産業の現状と課題

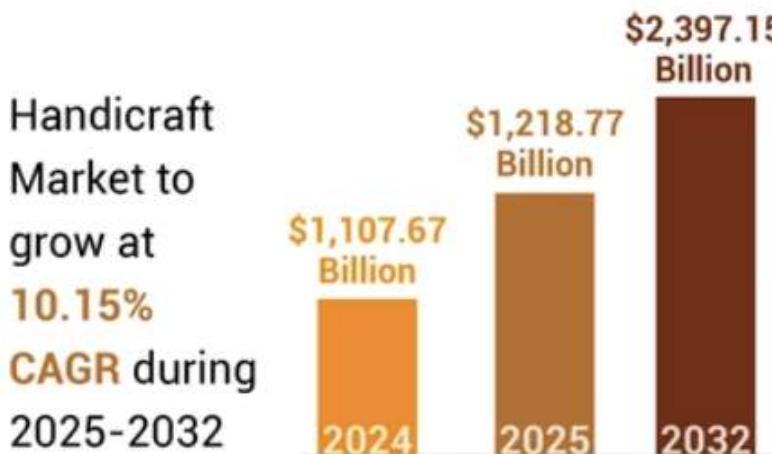
2. 現状分析

● 墈打刃物を取り巻く環境

境打刃物を含む高品質な日本製刃物を取り巻く需要環境は、国内外で構造的に拡大していると考えられる。

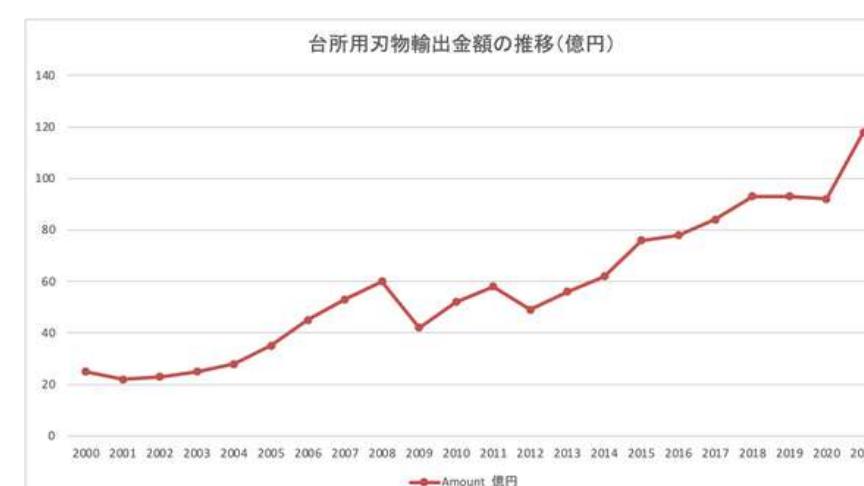
1. 日本の伝統工芸品市場は、インバウンド需要や海外富裕層の関心の高まりを背景に、中長期的な成長が見込まれている。
2. 台所用刃物の輸出金額は近年増加傾向にあり、特に高付加価値な日本製刃物への評価が高まっている。
3. 海外における日本食レストランの数は継続的に増加しており、それに伴い、プロ向けの調理器具・包丁への需要も拡大している。

伝統工芸品市場の拡大



出典：2025年版 日本の工芸品海外市場規模レポート

台所用刃物の輸出額の増加



出所：名古屋関税調査部統計調査課資料より作成

海外の日本料理店数の増加



出所：農林水産省調査より作成

2. 現状分析

● 墈打刃物の職人について

**境打刃物を担う職人の高齢化が進行している。
事業継承も不透明であり、後継者問題が深刻化してきている。**

1. 墈打刃物を製造する職人の高齢化が進んでおり、代表者が60代以上である工房が全体の約64%を占める。
2. 事業後継の状況も不透明な工房が多く、「事業継承の予定が立っていない」「事業継承をするつもりがない」という工房が全体の約71%を占める。

【代表者年齢区分】

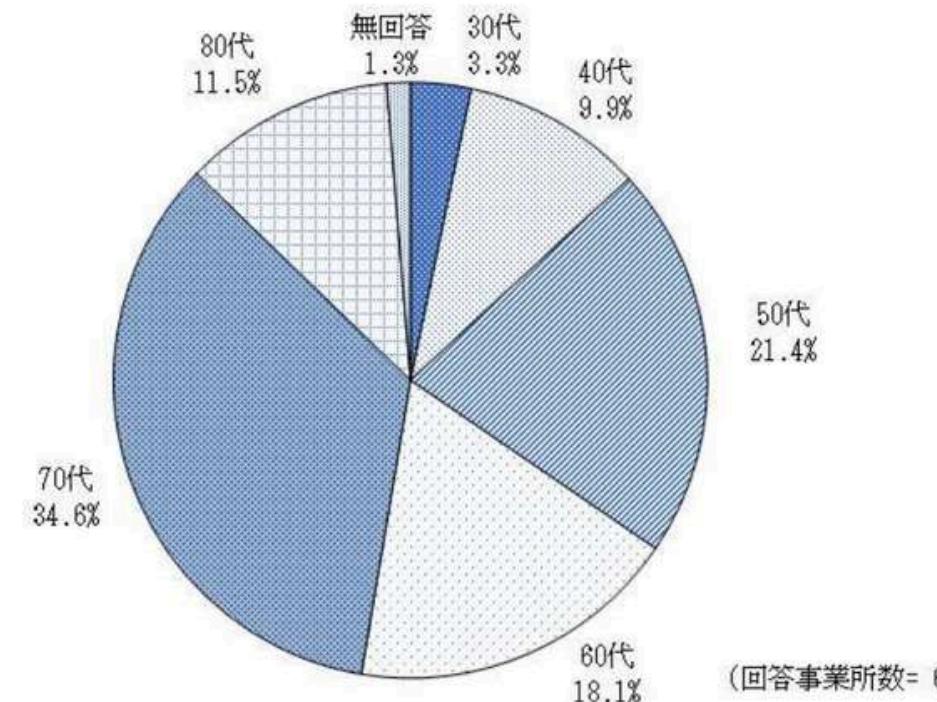
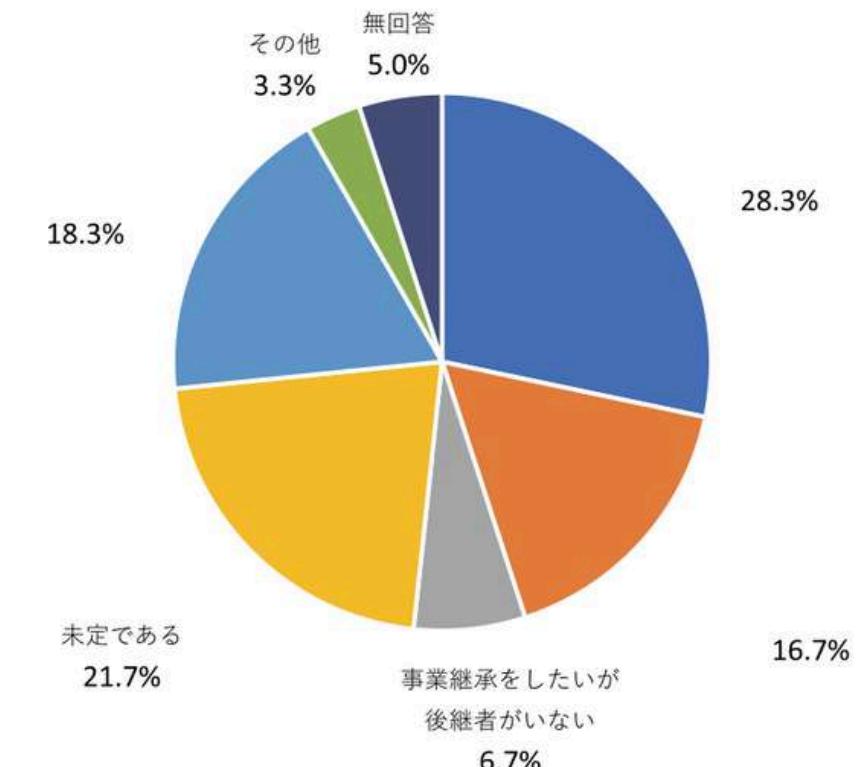


図 11 事業後継の状況（刃物）



2.現状分析

●取材先

—大阪FWでの取材—

- ・堺伝匠館
- ・堺産業振興センター
- ・観光コンベンション協会
→担当者の方にヒアリング
- ・大阪万博
→刃物事業者の方にヒアリング



●取材内容

- ・『修業期間は10年。ほぼ無給、無休で隙間時間でバイトをしている』
- ・『人材の確保は行政の方も職人の方も問題意識を持っている』
→職人の少子高齢化が深刻化
- ・『人材確保はハローワークかSNSでの募集が基本。しかし、ほとんどは家業継承』
→新規の参入者はいまだ少数

●取材先

—三田祭での取材—

- FW後、学園祭の来場者に研究内容を説明
⇒質疑応答などを通じて一般の方の意見を集めめた
- 堺線香や注染といった堺市の伝統工芸品も実際
に展示

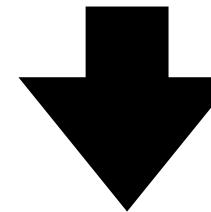


●取材内容

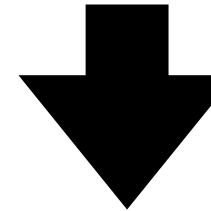
- 刃物職人への就職を考えたことのある一般の来場者はいなかった。
⇒刃物職人の選択肢があること自体知らない人が大半
- 堺市の刃物が有名であることを知っている来場者は、一定数いた。

●堺打刃物の課題

堺打刃物の需要の拡大が見込まれるもの、
供給力が追い付いていない。



なぜ供給力が低いのか



◎仮説

(A:総事業所数)が減少傾向にあるため。

供給力 = (A:総事業所数) × (B:一つの事業所における供給量)

(B:一つの事業所における供給量はマンパワーで上げ幅が小さいと予想)

なぜ事業所数が減少しているのか。

1, 若者の参入が年々減少しているため。

- 技術継承が困難で時間がかかる。
⇒感覚が大事な仕事のため、マニュアル化が難しい
- 修業期間はほぼ無給、無休
- 教育に人手と時間がかかる。

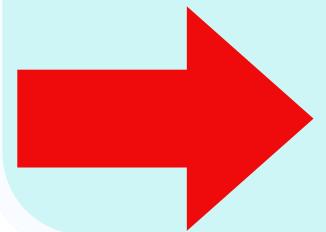
2, 工場が新たに建設できないため。

- 都市計画法により、騒音や振動で工場の新設が規制される。
⇒現在は1つも新設の工場を建設できない状態。
⇒産業の規模が広まらない。

なぜ事業所数が減少しているのか。

1, 若者の参入が年々減少しているため。

- 技術継承が困難で時間がかかる。
⇒感覚が大事な仕事のため、マニュアル化が難しい
- **修業期間はほぼ無給、無休**
- **教育に人手と時間がかかる。**



2, 工場が新たに建設できないため。

- 都市計画法により、騒音や振動で工場の新設が規制される。
⇒現在は1つも新設の工場を建設できない状態。
⇒産業の規模が広まらない。

現代の都市構造を踏まえた実現可能性の高い解決策を提示

若者が就職したくなるような環境づくりと サイクル型教育の確立



Step1



Step2

SAKAI CRAFT DOJO構想

— 住む・学ぶ・つながる職人拠点 —

●提案概要

<入口>

SAKAI CRAFT DOJO構想（空き家活用型）

提案内容

- ・堺市内の空き家を活用
- ・複数工房の若手が共同で暮らす住み込み拠点を整備

目的

- ・経済負担を軽減し、修行のハードルを下げる
- ・異なる工房に属する若手職人同士の繋がりを創出する



●提案概要

<入口>

SAKAI CRAFT DOJO構想（空き家活用型）

期待される効果

- ・ 若手が経済的リスクを抑えながら技術習得に集中できる
- ・ “仲間がいる”ことで孤立を防ぎ、離職率の低下が見込める
- ・ 地域の空き家活用することで災害/防犯リスクを減少できる
- ・ 住民と若手職人による祭り・イベント開催で地域コミュニティの活性化にも貢献できる

●提案概要

<循環>

SAKAI CRAFT DOJO構想 (AR育成)

提案内容

- ARゴーグルを活用し、鍛治・研ぎ・柄付けなど各工程の基本動作を視覚的に学べる環境を整備
- 若手職人の基礎習得を効率化

目的

- 師匠の指導負担を軽減し、受け入れ可能な弟子数を拡大する



●提案概要

<循環>

SAKAI CRAFT DOJO構想 (AR育成)

期待される効果

- 師匠が教える基礎部分をARが代替することで、指導負担が減り、弟子受入キャパシティが増加
- 危険工程の事前理解が進み、安全性が向上
- 分業制の特徴を活かし、若手は複数工程を横断的に体験可能
- 技術の“言語化・可視化”が進み、技術継承の仕組みが標準化へ

●計画性

『住み込みで挑戦を支え、ARで育成を加速する。』

- ・弟子の 70~80% が住み込み施設を利用し、挑戦しやすい生活環境を確立。
- ・工房の 80~90% が AR を導入し、基礎技術学習を標準化。

2030年（基盤整備）

- 住み込み施設：2棟（12~18人）
- AR導入：10~15工房（15~25%）

2040年（拡大）

- 住み込み施設：4~5棟（30~45人）
- AR導入：30~35工房（50~60%）

2050年（定着）

- 住み込み施設：6~8棟（50~70人）
- AR導入：48~54工房（80~90%）



●資金調達

<SAKAI CRAFT DOJO構想（空き家活用型）を実現するために>

①堺市「空家等活用促進補助金」

住み込み修行拠点の改修費を支援。

⇒50～200万円

②国交省「空き家対策総合補助金」

空き家を活用した地域活性化プロジェクトに適用可能。

⇒300～1,000万円

⇒最大総額約1,200万円（2030年まで）

●資金調達

<SAKAI CRAFT DOJO構想（AR育成）を実現するために>

③企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）

大企業から最大9割控除で資金流入を実現。

⇒50~500万円

④中小企業庁「スマートものづくり応援隊」

AR機器導入・育成DXを補助。

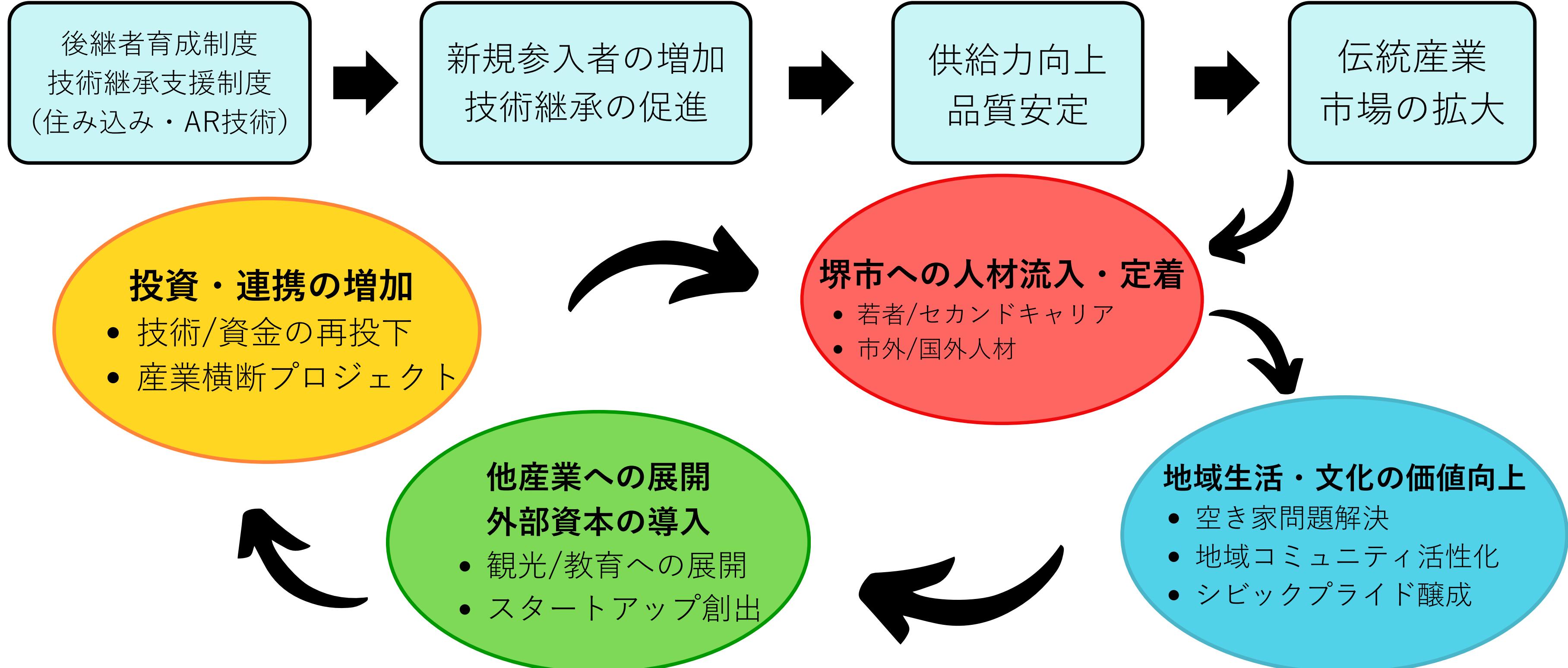
⇒100~1,250万円

⇒最大総額約1,750万円（2030年まで）

3.提案

●新たな堺市の姿

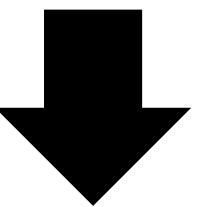
『人・産業・価値が集まり続ける循環型都市＝堺市の構築』

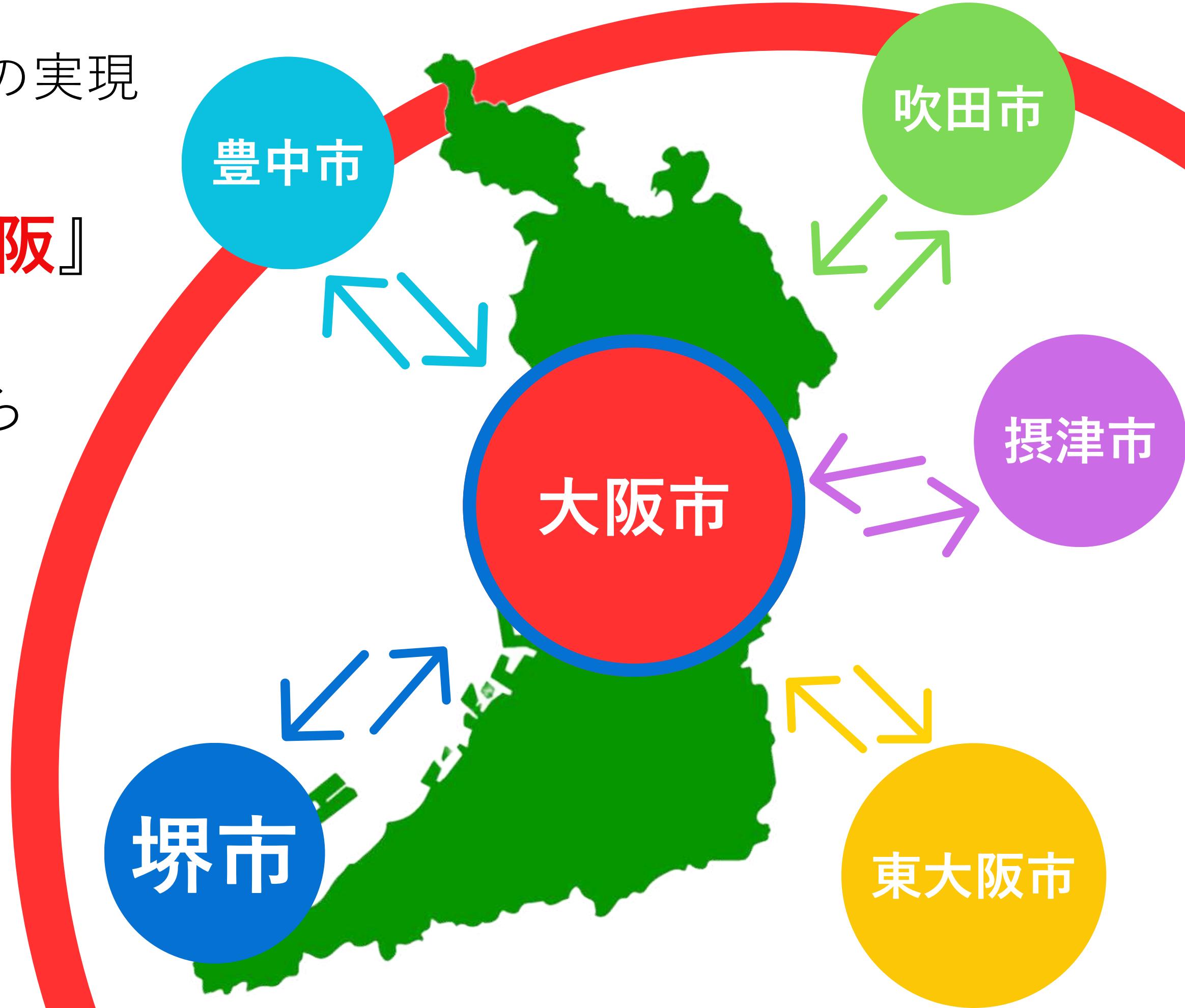


- 『大阪』の復活 = 副首都の実現

現代における『新・大阪』

- 大阪市だけで完結しない
- 都市が“役割分担”しながら
一体で機能する


東京の首都機能を
補完・代替する
『オール大阪』へ



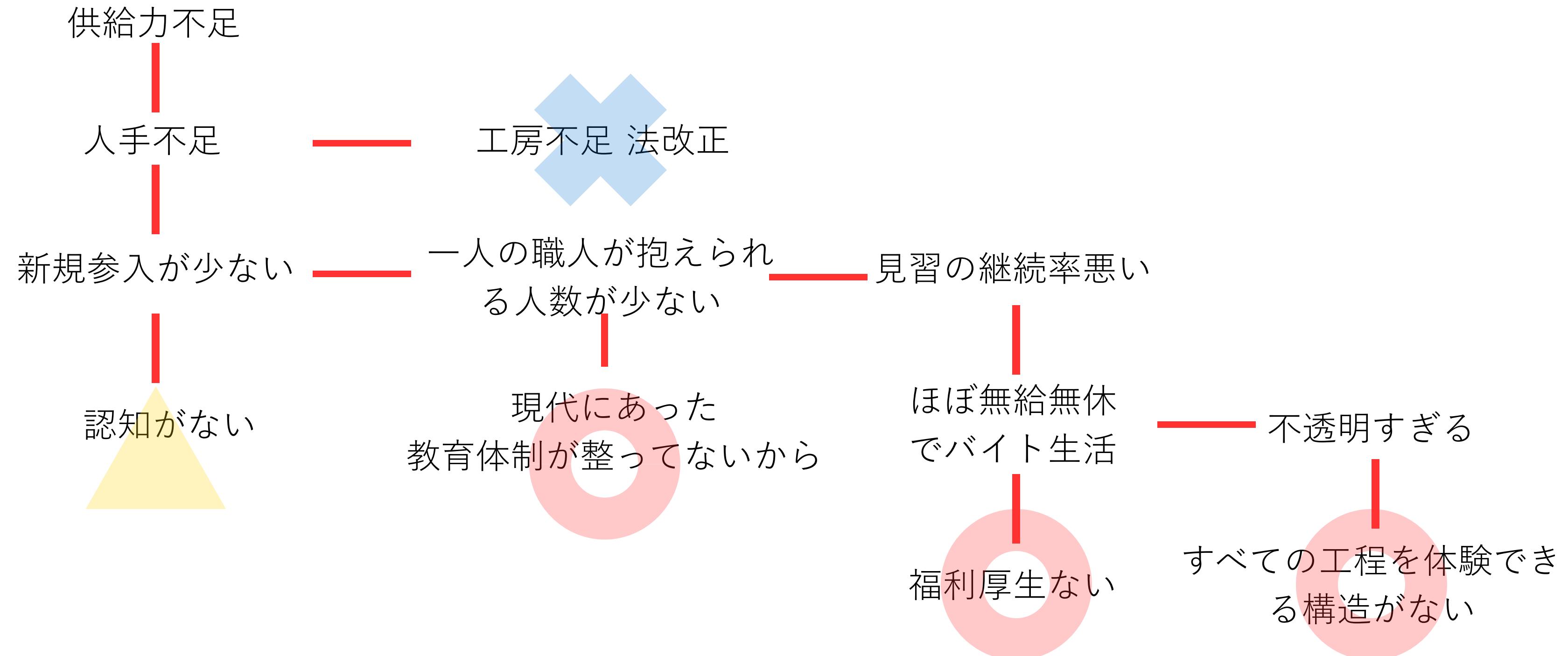
5.巻末資料

- 大阪府（2023）『府内総生産（産業大分類別）に関する統計資料』
URL : https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/33149/web_n2023_02.pdf
(参照日：2025年12月10日)
- 龍谷大学学術リポジトリ（年不詳）『伝統産業に関する研究資料』
URL : <https://opac ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/bdyview.do?bodyid=TD32067338>
(参照日：2025年12月10日)
- 大阪産業経済リサーチ（O-BIC）（年不詳）『大阪の産業別生産額データ』
URL : <https://o-bic.net/j/attractive/>
(参照日：2025年12月10日)
- 大阪府（2013）『大阪の伝統的工芸品産業の現状と課題』
URL : https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/12077/25ronshukitade_1.pdf
(参照日：2025年12月10日)
- 千葉大学地域経済学会（2021）「伝統産業における後継者育成の取組と課題－堺市の刃物産業を事例として－」
『地域経済研究』第47号
URL : https://www.jstage.jst.go.jp/article/chiikikeizai/47/0/47_7/_pdf/-char/ja
(参照日：2025年12月10日)
- KOGEI JAPONICA（2024）『2025年版 日本の工芸品海外市場規模レポート』
URL : <https://kogei-japonica.com/media/invest/overseas-market-2025/>
(参照日：2025年12月10日)
- 名古屋税関 調査部調査統計課（2022）『台所用刃物』
[Japan Customs https://www.customs.go.jp › boueki › tokur0405](https://www.customs.go.jp › boueki › tokur0405)
(参照日：2025年12月10日)

Appendix

● 埼打刃物の課題

需要はあるものの、



●大阪府・大阪市が掲げる副首都・大阪実現までのシナリオ



GDP ▶ 大阪での総生産額のこと。どれだけ経済成長したかということなんニヤで！（現状GDP約7.4%,経済規模約41兆円（2019年））

認知度 ▶ 大阪のみんなに「副首都・大阪」をどれだけ知ってもらっているか、も大切な指標なんニヤで！（現状約55%（2022年））